

フィリピンで2年間日本語教育に携わって

元ルソン大学日本語教師 為我井輝忠

これまで中国で2年間、スリランカで1年間そして最後にフィリピンで2年間の日本語教育を経験したが、どこの国でも貴重な体験をすることが出来た。今回はフィリピンに関して述べてみたい。

私は2014年11月から2016年11月までの2年間、フィリピンのルソン島(首都マニラのある島)で、前半はラウニオン州のサン・フェルナンドのTESDA(科学技術専門教育機関)で、後半はパンガシナン州のダグーパンにあるルソン大学(University of Luzon)で教えた。いずれも対象は全く日本語を専門としない学生たちで第二外国語として教えた。

フィリピンの教育制度は日本と異なり、6-4-4制で、小学校6年、中高等学校4年、大学4年となっている。義務教育は10年間で、その後の大学に入る年齢が日本と比べると、2歳も若い。そのため彼らを初めて見た時、大学生にしては幼い気がしたのはそのためであった。しかし、教育制度が数年後から変わるようで、日本と同じようになることになっている。

サン・フェルナンドのTESDAはすでに学校教育を終え、数年間働いた後再教育のために学ぶ高等専門学校で、全国各地にある。自動車や電気器

具、コンピューター等技術系の国の教育機関である。日本語教育は私が行って初めてスタートしたので、特別な方針は何もなく一切私に任された。そこで私はテキストを使わずに会話を中心に基本的なことを教えたが、アシスタントが常時授業の時はついていたので細かい点や文法的な説明は彼に全て任せた。学生は18歳から32歳までの15人で、すべて男性である。日本語のクラスは彼らの意思とは関係なく学校の方針で開始したため、あまりやる気がない学生もいた。授業は週3回あり、午前と午後2時間ずつあって彼らにはかなり苦痛であったに違いない。そこで日本のアニメや食べ物のスライドを見せたり、パーティを開くなど、様々な工夫をしてみた。日本語の能力を伸ばす面では大したことはあまり出来なかったが、多少でも日本のことに興味を持ってもらえればと思った。

後半はダグーパンという中規模程度の都市にあるルソン大学で教えた。この大学はカソリック系の私立大学で、学生数は5,000人を超えていた。小学校から中高校もあり、かなり大きな学園である。私は観光学部で教えた。将来、航空会社、ホテル、ビジネス関係の分野を目指す学生ばかりで、ほぼ全員日本語は初めてであり、中にはこれまで2年間学んできたという学生も数人いた。3クラスを教えた。1年生から3年生各学年一クラスずつで、1年生は



TESDAの学生やアシスタント(前列右から2人目)と共に



ルソン大学で日本語を学ぶ3年生の学生と共に



授業終了後日本語クラスの2年生と共に

16歳の学生が多く、前述のように一見、幼い感じがした。しかし、いざ授業中となるともう大人以上の意見を堂々と述べる姿をのぞかせていた。

授業では一クラス30人程の学生がおり、週2時間(一単位1時間)で限られた時間なので、ひらがなとカタカナに関してはほとんど触れなかった。テキストは「みんなの日本語」(英語版)を利用したが、あまり進まなかったことは確かである。むしろ彼らから要求の強かった日常会話や挨拶、観光、ビジネス事情を紹介する等、実用面を重視して教えた。フィリピンでは教師が学生に向けて一斉授業をする日本式のやり方は適当ではなく、むしろ一人一人に質問をしたり、考えさせたりする方法を進めた。学生は日本のことはおおむね知っていて、アニメやファッションなどは詳しい学生が多かった。

試験は、前期と後期にそれぞれ3回ずつあり、ペーパーテストと口頭試験の2種類で行った。試験をするのはそんなに問題ではなかったが、試験の結果と成績をコンピューターに入力するのが一苦勞であった。思っていた以上に事務的なことがコンピューター化されていて、とても一人ではできなかった。何度も教務の先生から教えてもらったが、幾度聞いても難しかった。そこで先にも述べたアシスタントに手伝ってもらわなければならなかった。手伝ってもらつと言うよりはほぼ全部やってもら

ったと言う方が適切かもしれない。

1年間の短い期間だったので、十分なことは出来なかったが、それでもルソン大学での仕事は充実し、楽しかった。それは学生が積極的に授業に参加してくれて、たくさんの質問やら時には脱線したりして、有意義な時間を学生と共有できたことにもよるだろう。

授業以外にも様々な面で学生や先生方との交流の機会があった。学内でのパーティ、新入生歓迎会、寿司弁当コンテストの審査員に招かれたり、また私のアパートで日本語パーティに学生を招いて3回開いた。この日本語パーティは先ずは日本語を話すのを目的とし、その上で日本料理(のり巻き)をみんなで作ったり、浴衣の着付け(知人の日本人女性に手伝ってもらった)をしたりして、大いに楽しむことが出来た。最後に、日本では経験できなかったことが一つあった。それは私の誕生日(10月14日)を学生たちに祝ってもらったことである。自宅での誕生パーティはもとより2回も近郊のビーチに繰り出して、みんなで祝ってくれたことである。こんなことは日本ではついぞ経験したことはなかった。

帰国して1年になる。再度、フィリピンで教えて欲しいという話がある。その折にはフィリピンの教育事情を更にしっかり見たいと思う。